

一般社団法人 日本物理学会
2023年事業報告
(2023年1月1日～12月31日)

目次

1. 事業概要	
2. 各事業詳細資料	(附属明細1) 処務詳細資料
2-1. 学術講演会の開催・後援等	・総会・役員会等に関する事項
2-2. 国際交流・協力活動	・契約・入札・他に関する事項
2-3. 物理学に関する普及・啓発活動	・体制の整備に関する事項
2-4. 本会の目的達成のために重要な活動	(附属明細2) 会員の異動状況
2-5. 刊行物 (実施事業を含む)	(附属明細3) 事務局の現況

1. 事業概要

2023年5月に、新型コロナウイルス感染症が感染症法の5類に移行されて状況が沈静化したのに伴い、本会の活動も徐々に対面形式が復活してきた。一方、コロナ禍中に定着したオンライン会議形式による各種委員会や理事会等が継続して開催され、また、事務局職員の在宅勤務形態も定着し、アクティビティを維持・拡充させながら効率的な運営が可能となった。また、3年以上におよぶコロナ禍によって学会活動が制限されたため、正味財産が数千万円のオーダーで増えたが、これを以下に記す各種の活動に有効に活用するための議論をはじめている。

2023年9月には、東北大学において4年ぶりに対面形式で年次大会が開催され、多数の参加者を得たのは大変喜ばしいことであった。開催のために貢献していただいた皆様に感謝申し上げたい。また、2024年9月の年次大会は北海道大学で開催されることが決まっていたが、2025年9月の年次大会は広島大学を会場とすることが決まった。一方、3月の春季大会は引き続きオンライン形式での開催となる。このような対面形式とオンライン形式の交互開催の継続に関しては今後議論していく必要があると考えている。また、大会の益々の活性化を期待して「計算物理」の新領域の設立の議論が始まった。

本会は、読者が主に費用を負担する購読料モデルのジャーナル (JPSJ) と論文著者が費用を負担するAPCモデルのジャーナル (PTEP) の2つの異なるビジネスモデルの英文学術誌を刊行しているが、両誌とも堅調な出版状況を継続していることは心強いことである。オープンアクセスの世界的潮流のなか、独自の存在感を示すために担当委員会でも常に改善の議論がなされている。

本会は、AAPPS (Association of Asia Pacific Physical Societies, アジア太平洋物理学会連合) において中心的な役割を果たしており、本会の国際化を牽引している。2023年には、本会とAAPPSがジョイントで若手研究者を顕彰する「AAPPS-JPS Award」の第1回表彰が行われた。これは今後も継続していく。また、本会会員がそれぞれの専門分野で開催する国際会議の準備金の貸し付け制度を復活させた。会員の皆様にはこれを積極的に活用し、国際交流のさらなる活性化に資することを期待したい。

コロナ禍中に始まったオンライン物理講話は、毎回数百名の参加者を得て好評のうちに継続されている。広報委員会は、このオンライン物理講話の拡充と、その他の形式のアウトリーチ活動も検討している。特に、数年後に控えた周年記念事業を契機として、物理学史資料委員会とも協力して、広報・アウトリーチ活動のさらなる活性化のための議論を始めた。

2023年8月には、主に高校生を対象とした国際物理オリンピック2023が東京で開催され、本会は組織委員会などに委員を派遣すると同時に、本会の多くの会員が問題作成や採点、運営などに参加して大きな貢献をした。引き続き、毎年開催される国際物理オリンピックに送り込む日本代表選手団の国内選抜大会である物理チャレンジに対しても協力を継続していく。

ダイバーシティ推進委員会は、男女共同参画に関する国内外での連携活動を行うとともに、本会の外国人会員に対するサービス向上を検討しはじめた。学会からの情報発信を日英併記にするなど、可能なところから具体的な施策を開始した。

中高生による自由研究の発表会であるJr.セッションに対して数社の企業に協賛していただけること

となった。優秀な研究発表をしたチームに対して、協賛企業名を冠した「冠賞」を授与することが決まり、2024年3月の大会から実施することになった。これを機に、社会連携をさらに強化したいと考えている。

その他の事業を含め、各委員会で行った事業の詳細を下記に報告する。

主な活動内容は

- 1) 会員・会友サービス等の充実
- 2) 英文誌刊行事業の継続・発展、学会誌の充実および刊行事業全体の長期計画の検討
- 3) 学会活動を支える財政基盤と事務局・各種組織の整備
- 4) 国内外の学協会・団体との連携の強化と国際化の推進
- 5) 社会への物理学情報の発信力強化と学会活動広報の充実
- 6) 次世代人材育成・社会連携活動の推進
- 7) 物理学関連の教育、国際物理オリンピックの準備
- 8) ダイバーシティの推進、研究環境についての検討
- 9) 大会のあり方の検討と充実

である。以下にそれぞれを概観する。

1) 会員・会友サービス等の充実

会友制度は2017年10月からスタートし、会友数は2019年度において一時的に100名に到達した。2020年末から新規の会員・会友サービスとして、オンライン物理講話の企画を開始したこと、開始当初は大学院生の正会員に社会人となって退会される際に会友になってもらう制度設計を2021年4月より一般の方も会友になれるように変更したこと等を機に会友数が上昇し、2021年4月に114名、2022年4月に153名、2023年4月に202名と推移している。オンライン物理講話は、現在、2か月に一度のペースで実施しており、会員・会友は事前登録により無料で講話会に参加できる。2022年9月からは物理チャレンジ金賞受賞者の物理への興味を継続してもらうべく、初年度会費無料の会友として招待し、2023年には金銀銅賞受賞者に対象を拡大した結果12名が本招待特典を利用した。今後は、Jr. セッション受賞者にも会費無料招待枠を拡大し、オンライン物理講話を継続発展させることでより幅広い視聴者層の獲得を図る。また、「JST理数大好きNEWS」等のメールマガジンへの配信や、支部活動、大学や科学館等へのポスター掲示を通じた高校大学生や中学高校の理科教員等の物理愛好家への会友制度の周知を一層すすめる、会員、会友増加を目指す。さらに、今後は毎月配信している会友・会員向けのメルマガ（イベントのお知らせや会誌目次等）の充実を図る。2022年8月から、物理学関係のプレスリリース情報を本会ホームページで紹介する取り組みを開始、2022年は29件のプレスリリースの発信、2023年は35件のプレスリリースを発信し、そのリンクを会友・賛助会員向けのメルマガのコンテンツに加え運用している。

2) 英文誌刊行事業の継続・発展、学会誌の充実および刊行事業全体の長期計画の検討

前年度に続き、会誌の発行と会員への配布、ならびにJPSJ・PTEP等の英文学術誌を刊行した。これらは物理学会の活動の中核を成す基盤的事業と位置付けられている。

JPSJについては、投稿・掲載論文数の漸減傾向を改善すべく、掲載料金の無料化や種々のサービス向上を広く内外に広報した。特に会員に対してはわが国で編集・出版するジャーナルとしてのJPSJを維持・発展させることの重要性をアピールし、積極的な投稿を呼びかけた。また、研究が盛り上がっている諸テーマに対しては、招待論文や特集を企画してより積極的に関与し、JPS Hot Topicsの活用と併せて状況の改善をめざした。

JPSJのvisibilityの向上・収益の増加に向けて、オンラインプラットフォームを物理学会が保持した形でのAIPPとの業務提携を継続した。その結果、購読機関数およびダウンロード数が上昇し、購読料収入も上昇の傾向を示し、提携の効果が上がっていると考えられる。また、独自プラットフォームであるAtypon Literatum上でのオンラインサービスを充実させ、本サービスの料金の上昇を最小限に抑える努力を続けた。AIPPとのプラットフォーム統合に関してもJPSJの基本的な独立性の観点に配慮しつつ検討を進めた。

会議録出版に関しては、2014年度から発行を開始したJPS Conference Proceedingsの刊行を充実させるために、早期に会議開催者に呼びかける体制を整えた。

PTEPについては、前年度に引き続き、優れた論文が多数掲載されるよう、国内外のコミュニティに向けた広報の努力を継続した。実験と理論の様々な分野での特集・招待論文の新企画を立案するとともに、量子計算のような新興分野の論文投稿を促進するために、分野の設定を見直した。2022年のPTEPのimpact factor (IF)は、前年の7.5から8.3にまで上昇したが、優れた論文による効果と並び、2020年にPTEPから出版されたReview of Particle Physics (RPP)が大きく寄与したと考えられる。これを好機として、より多くの質の高い論文の投稿を定常的に呼び込むべく、地道な努力を継続した。

また、著者と読者へのサービスを向上させるため2020年度途中から採用したadvance article方式（論文掲載が決定した時点でウェブページから論文原稿にアクセスできる）を2023年度も継続した。同じく2020年度途中から開始したJPS Hot Topicsへの話題提供を2023年度も定期的に行い、その充実に向けて貢献した。完全オープンアクセス誌としての財政的持続可能性のために、2023年度も支援機関獲得への働きかけの努力を継続した。論文掲載料収入の安定的な確保に向けて、2020年7月より運用方針の変更を実施したが、今年度もこの方針を継続した。その効果や影響についての分析ならびに今後の方策について執行編集委員会で検討を始めた。

物理学会で刊行する英文ジャーナル3誌（JPSJ、PTEP、JPS Conference Proceedings）の連携を強化して国際的注目度の向上を図る取り組みが、日本学術振興会・科学研究費補助金・研究成果公開促進費（国際情報発信強化）により2020年度から5年間の事業として進められている。この補助金によりオンライン上に創刊された“JPS Hot Topics”に対して、3誌に掲載された論文から注目度の高いホットな話題を選択し、幅広い専門分野の研究者を対象とした平易な解説記事を作成して、週1本のペースで掲載した。

学会誌については、会誌がより有用で魅力的なものであるように、2023年度は特に以下の点に注力した。(i)当学会は物理学のさまざまな分野の専門家の集まりであることに鑑み、それぞれの分野の最先端の研究成果を紹介するとともに、会誌を通じて他分野の進展状況をお互いに共有できることを第一の目的として編集した。同時に、細分化された専門分野間をつなぎ、会員の相互理解と教養を高めることを目指した。(ii)会誌は会員だけでなく大学（院）生や高校生、一般市民の目にも触れることに配慮して、視覚的な魅力や日常的なことばによる最先端の研究の解説および物理教育や物理学史などの記事などを掲載し、物理ファンの層を広げるべく、物理学の専門家以外にも魅力を感じてもらえる紙面構成にした。(iii)上記目的を達成するために、物理の様々な分野の専門家が集う編集委員会において、ブレインストーミングを含めた自由な異分野交流を図りつつ議論を重ねた。(iv)「談話室」などを通じて、会員間のコミュニケーションを一層活発化させた。

さらに、産業界等、様々な舞台での会員の活動内容を記事として紹介・共有し、若手のキャリアパスを支援するとともに、物理学の広がりを紹介した。さらに、刊行事業全体の安定した発展のために、総合的な視点から長期的課題について検討を行った。

3) 学会活動を支える財政基盤と事務局・各種組織の整備

2023年の会計関連の計画は、新たな目標として、コロナ後の活動再開、物価高騰、為替変動を踏まえて今後5年間程度を見すえた財政運営計画を確立することであった。計画段階では、前年度から引き続き各事業の収支分析に基づいた対応策をリストアップし、長短所と費用対効果を検討し、理事会と事務局とで共有しながら2024年の予算編成を行った。特に、コロナ後の予算規模が従前からどう変化したかを分析した。このほか、前年に引き続き(1)休日の委員会回避と各委員会の実情に合わせた経費スリム化 (2)公益社団法人の移行を念頭に置いた財務会計システムの更新計画の検討 (3)予算編成に際し、会員減、物価高などの中で財政基盤の健全性を維持し、かつ会員が利益と負担のバランスを実感できるような、各事業の財政面での裏付けを示す財務分析、に留意して活動を行った。

2023年は、引き続き会員の減少傾向（年3%程度）が見られ、また物価上昇が2%程度となる中、実質△

5%程度の収支バランスでの会計運営となっている。実際に物品費、業務委託などでの値上げ例も多くみられた。支出では、コロナ後も多くの委員会等の会議をリモートで行うこととなり、旅費が主となる会議費はほぼ半減の400万円強となった。大会関連では、2023年はほぼ予算通りの収支となったが、2024年には会場費が大幅に上昇（1000万円超）となる予定であり、年1回の対面開催での大会費用が今後大幅に増加することが見込まれる。また、刊行センターではJPSJ購読料収入が円安の影響で大幅に増加し、またPTEPは過去3年間（2020年から2022年）のSCOAP3対象論文の掲載数が当初見込みより好調であったことによる追加収入があり、収支は改善したが、一方で掲載数が増加すると出版に関連する費用も増加することとなる。全体でみると2023年の学会収支は黒字となったが、来年以降単年度での収支バランスが難しくなる兆候が見られている。

一方で、2020年、2021年にはコロナ禍における支出減要因により、合わせて7,000万円程度の黒字が生じたため流動資産が増加した。上記の収支縮小均衡の状況では近い将来事業に必要な資金、特に大会関係が不足する可能性があるため、特定資産を大会関連（学会会合、5000万円）および重点活動項目となる教育社会連携活動（2000万円）について積み上げることを来年度予算に盛り込むことを決定した。またこれら引当資産のうち大会関係について近い将来に対面の学会を年2回開催する可能性を考え、年1300万円を使用すること、また国際交流引当資産について、国際会議の貸出金（900万円以内）にあてること、国際交流のために年370万円を使用すること、の3点について使用計画を決定した。このように、大会開催、会員サービス、刊行の3つの事業それぞれが収支均衡することを学会会計の基本としつつ、会員サービス充実や国際化などを通じて学会員減少の食い止めに資する学会の今後の活動を見すえ、資金の不足が起きないように準備している。

今後の課題としては、短期的には補助金の獲得、企業展示会収入の確保などで大会の収支改善を行うこと、2023年予算編成時に決定した通り、PTEPの掲載料金（APC）の値上げを検討することが挙げられる。加えて、為替変動による影響を引き続き注視する必要がある。2021年より支部会計を本部口座に統合した運用が定着しているが、会計処理を容易にする工夫などを継続する。

事務局は物理学会の活動を日常的に支えている重要な組織である。給与も含む事務局職員の待遇については、「国家公務員に準ずる」というルールが広く了解され、フレックスタイム制導入、リフレッシュ休暇などを加味した新たな給与体系を実現するための、就業規則、各種労使協定、給与規則などの整備を行い、2018年にこれを施行した。さらに在宅勤務制度を新たに導入して、職員の働き方改革に務めている。職員から要望のあった休日の委員会等の開催回避、会議時間の適正化については、引き続き強く学会内に働きかける。各職員の担当事業の調整・最適化は、今後も学会の事業内容の変化への対応などを事務局と理事会が緊密な連携の下で進める。

4) 国内外の学協会・団体との連携の強化と国際化の推進

日本学術会議との連携を維持・発展させることは日本物理学会の重要なミッションの一つである。日本学術会議の物理学委員会が中心となって物理学の研究・教育に関連する提言や見解などを発出するにあたっての連携・協力や、日本学術会議の理学・工学系学協会連絡協議会に、会長や理事が参加して意見交換を行うこともその一つである。2023年3月の日本物理学会春季大会では、日本学術会議から提案されたシンポジウム「日本の研究力と研究の多様性～現状分析から研究力強化を考える」を開催し、会員との問題意識の共有をはかった。2023年後半は、日本学術会議の組織形態をめぐる議論などで忙殺されたこともあり、連携を発展させる環境とは言い難い状況であった。2024年以降は連携を深めることを目指す。

2014年から始まった学術会議の「若手アカデミー（若手科学者ネットワーク）」の活動に協力するため、若手・学生の研究グループからの要望を聞き取る調査を行い、本会ホームページに、若手の活動を紹介しリンクするページを設けた。

国内の学協会としては、応用物理学会との連携が特に重要である。IUPAPや主要国の多くの物理学会では、純粋物理学と応用物理学の研究者が一体の学協会を組織している。国際的活動への対応や共通する問題の検討などを行うため、年に1回程度、会長・副会長や関係理事が会合をもつこととしている。また、会員数減少の問題は物理に限らず多くの理工系学協会でも起こっていることが2022年の調査で明らかになった。2023年2月にはこれらの問題に関して会長・副会長による意見交換を行った。理工系学協会に共通する問題は、学協会同士の横の連携とともに、日本学術会議の理学・工学系学協会連絡協議

会や物理学委員会などを通して日本学術会議とともに対応する必要がある。

毎年開催される「国際物理オリンピック」に日本代表を派遣するために日本委員会が実施している「物理チャレンジ」に協力した。日本物理学会および応用物理学会の担当理事が、日本委員会の理事を兼任して対応した。2023年7月に東京で開催された国際物理オリンピックでは、現会長および前会長が結団式に出席した。また、多くの会員が問題作成や採点、運営などに協力した。今後も「物理チャレンジ」および国際物理オリンピック派遣事業に協力する。

本会は、アジア太平洋物理学連合AAPPSの中心的なメンバー学会としてリーダーシップを発揮してきた。今後もAAPPSの運営に協力し、AAPPSと日本物理学会との発展的な関係を構築していく。AAPPSの既存の4つのDivision(プラズマ、原子核、天文・宇宙・重力、凝縮系)に加えて他のDivisionを形成することに関して、2023年には大きな動きはなかった。今後も対応する日本の研究分野コミュニティとの連携の可能性を探る活動をサポートする。優れた若手研究者を対象として新設したAAPPSの名を冠した賞(AAPPS-JPS Award)を創設し、2023年には、第1回表彰を行い、5名の若手会員にAAPPS-JPS Awardを授与した。

本会はこれまで国外の13物理学会と相互協定・覚書を締結してきた。米国物理学会 (APS) も含めた海外の学協会との協力関係についても強化していく。韓国物理学会とは第1回の合同シンポジウムを2020年秋に韓国で実施し、第2回の合同シンポジウムを2022年春の日本物理学会年次大会で開催した。

また、各国の物理学会と共同で、科学における国際的な協力に関する声明「Principles & Policies for International Scientific Collaboration」を発表した。

5) 社会への物理学情報の発信力強化と学会活動広報の充実

学会ホームページ (HP) やパンフレット等を通して積極的に情報発信に努めてきた。特に、海外の物理研究者向けにHPの英語表記の充実化を行なった。また、公開講座、Jr. セッション、オンライン物理講話などを通して、会員だけではなく広く社会へ物理学情報の発信を行った。その他にも、日本物理学会 第78回年次大会では、総合講演の内容をYouTubeで一般公開することで、広く社会に物理学会の活動を発信した。HPやプレスリリースのみならず、会誌への記事掲載、イベントの開催などを通して、社会に質の高い物理学情報の提供を行なった。

6) 次世代人材育成・社会連携活動の推進

物理学の研究・教育を通して、次世代の学术界だけでなく産業界をも担う人材育成の場を提供することは本会の最大の使命の一つであり、産業界や教育界と共同して、社会との関わりを一層強めるための活動を行っている。その観点から2018年度に「次世代人材育成プロジェクト」を立ち上げ、2019年度に新設した次世代人材育成・社会連携委員会を中心に、協賛企業とさらに緊密な連携を展開している。特に、下記のJr. セッションでは、協賛企業を募り、そのうちの3社の企業名を冠した冠賞を、優秀な発表をしたチームに授与することを決め、2024年3月の発表会から実施することにした。それを含め、次世代人材育成プロジェクトでは、i) Jr. セッション、ii) オンライン物理講話、iii) キャリア支援イベント、iv) 自然の不思議物理教室、v) 物理教育シンポジウム、vi) 高校物理の授業に役立つ基本実験講習会、の6つの事業を展開してきたので、本年の活動報告を以下に述べる。

6-1) Jr. セッション

Jr. セッションはJr. セッション委員会が中心になって準備と実施をおこなってきた。次世代人材育成・社会連携委員会では、企業等の協賛を得て主に財政的な面からこの事業を支援している。現在は、コロナ禍の影響によってオンライン形式で開催しているが、現地開催を希望する声も多いので、将来的には現地開催形式に戻したいと願っている。その場合、会場費などの負担が高額になる。そのため、2022年には、従来之最優秀賞や優秀賞などの授与のほか、一定額の協賛金をいただける協賛企業の名前を冠した冠賞を創設することにした。そして、2024年開催のJr. セッションから3社からの冠賞の授与を開始するとともに、今後も協賛企業を増やし、持続可能な形での当事業継続を実現したい。また、最優秀賞および優秀賞受賞チームには会友の無料招待を行い、オンライン物理講話などへの参加を促し、理科・物理に対する興味関心を喚起することにした。

6-2) オンライン物理講話

長く対面形式で続けられてきた年に一度2日間にわたり行われる「科学セミナー」が2020年に新型コロナウイルスの影響により開催中止となったのを契機に「科学セミナー」を衣替えし、オンライン参加型講演会である「オンライン物理講話」を隔月で開催している。「オンライン物理講話」は、広い分野から最先端の研究について、他分野の研究者や学生にわかる程度の難易度で1人の講師が1時間半の持ち時間で行うオンライン講演会である。

2020年12月に第一回が行われ、2021年に5回、2022年、2023年共に6回実施した。2023年は物性から素粒子宇宙分野に加え、機械学習や量子コンピュータといったテーマで講師をお招きし、平均367名の日本の各地域や海外からの参加者があり、好評を得た。過去3年の実績から分かるように「オンライン物理講話」は物理学の啓蒙活動として重要度が増しており、今後はより幅広いターゲットに向けた講演を充実させ、広報活動により学会員以外への認知度を高めていく。

6-3) キャリア支援イベント

キャリアパス関係事業として2018年までキャリア支援センターが中心となり行ってきた理工系（物理関連分野）人材のためのキャリアフォーラムおよび私立中高向け「理系教員選考会」を終了し、代わって次世代人材育成・社会連携委員会が開催する年会・大会でのキャリアパス展示会を充実させてきた。新型コロナウイルス禍のためにこのイベントは中止となっているが、2023年9月の年次大会でもキャリア展示・ランチョンセミナー等の希望がなかった。今後、学生会員・若手会員等の意見を参考に会員のためのキャリア支援の在り方を再検討することにした。

6-4) 物理教育関連事業

物理教育関連事業に関しては、次項の「7) 物理学関連の教育、国際物理オリンピックの準備」を参照のこと。

7) 物理学関連の教育、国際物理オリンピックの準備

7-1) 物理学関連の教育

教育関連事業である、公開講座、自然の不思議物理教室、物理教育シンポジウム、高校物理の授業に役立つ基本実験講習会についての報告は以下の7-1-1)、7-1-2)、7-1-3)、7-1-4)にまとめる。これらの事業には、必要に応じて次世代人材育成・社会連携委員会が、本会に寄せられた寄付金などによる財政的なサポートをおこなった。なお、Jr.セッション参加校の活動について、各支部の域内で研究指導を希望する中高校がある場合には、可能な範囲で支部役員等が支援することを、支部長会議において要請し、それぞれの支部で対応する形で実施することになった。また、JABEEについて応用物理学会との2学会体制で協力した。

7-1-1) 公開講座

幅広い層への物理学の教育と発信のために、高校生・大学生・一般を対象とした「公開講座」を主催した。2023年の公開講座は、科学研究費補助金の支援を受けて、11月26日に「量子ビームで見る、見る、診る」と題して、東京都での対面の講演会をオンラインで同時配信する方法で実施した。また、その録画は会員専用ページで視聴できる。

7-1-2) 自然の不思議物理教室等

自然の不思議物理教室は、小学校高学年・中学生向けの体験型実験教室である。2023年も物理教育委員会が中心となって、国立科学博物館との共催で7月から8月にかけて5回にわたって実施した。また、世田谷区教育委員会主催の世田谷区中学生講座（7月30日開催）に講師派遣等で協賛した。

7-1-3) 物理教育シンポジウム

本シンポジウムは、中学・高校の理科・物理担当の先生方など教育関係者を対象に、教育現場の課題や期待について、講演・事例紹介などをもとに議論する場である。2023年も物理教育委員会が主催し、物理教育学会と共催し、11都県の教育委員会の後援を得て、3月19日にオンラインで開催した。

7-1-4) 高校物理の授業に役立つ基本実験講習会

本事業は、現職の物理（理科）教諭または物理（理科）教諭を志望する学生等を対象に、高校物理の授業で実施する各種実験を体験しながら実験スキルを学ぶ講習会である。2023年も物理教育委員会お

よび物教育研究会の主催で、日本物理教育学会と共催し、学術図書出版社の協賛を得て、7月16、17日に東京で開催した。また、同講習会は複数の支部でも開催された。

7-2) 国際物理オリンピックの準備

本会は、(一社)国際物理オリンピック2023協会との協力を進め、国際物理オリンピック2023が年7月10日(月)～17日(月)に、80の国・地域から387名の選手が参加して、国立オリンピック記念青少年総合センター(東京都渋谷区代々木神園町3-1)で成功裏に開催された。日本物理学会前会長が国際物理オリンピック2023組織委員会委員として、会長は同運営幹事会委員として実施に向けた活動に協力し、本会の多数の会員が問題作成・採点・運営等に協力した。一方、物理オリンピックの国内予選も兼ねる物理チャレンジを主催する、(公社)物理オリンピック日本委員会にも支援金を拠出すると同時に物理学会理事を一名派遣し、連携協力を図っている。2023年7月9日の予選に引き続き、8月19日(土)～22日(火)に岡山県で全国大会が開催され、2024年に開催されるアジア物理オリンピック(マレーシア)および国際物理オリンピック(イラン)に出場する日本代表選手の候補者が選抜された。

8) ダイバーシティの推進、研究環境についての検討

ダイバーシティ推進委員会では、物理学会の女性会員比率上昇を促進するため、NPO 女子中高生理工系キャリアパスプロジェクトが主催する「女子中高生夏の学校」に協力学会の一つとして、実験およびポスター企画で参画した。夏の学校は、8月5-7日に、3年ぶりに国立女性教育会館において対面で開催され、全国29都道府県から98名の生徒が参加した。また、日本物理学会が賛助会員となっている「女子中高生のための関西科学塾」((一社)関西科学塾コンソーシアム主催)に関しては、3月に実施されたイベントで賛助会員ブース展示を関西地区の会員が行った。2022年に、委員会の名称を「多様性」を重視する現状を踏まえて「ダイバーシティ推進委員会」に変更したことに伴い、今まであまり配慮されていなかった外国人会員から意見を聞くランチョンミーティングを理事会企画として年次大会(仙台、9月17日)で行った。トピックは「留学生、外国人研究者にとって居心地のいい物理学会とは」であったが、約55名の会員(外国人、日本人半々)が参加し、活発な議論が行われた。さらに、外部団体との交流も重要であるので、男女共同参画学協会連絡会にも参加し、シンポジウムで物理学会の男女共同推進活動の発信も行った。海外物理関連学会 女性セッション ICWIPにも参加し、日本物理学会の取り組みを紹介した。

研究環境のさまざまな側面について研究環境検討委員会で検討を継続している。この委員会では(I)会員アンケート集計結果、(II)科研費の配分状況調査、(III)図書館アンケートの3つの側面から10年に一度のペースで大規模調査しており、近年も3件の「委員会便り」を会誌に報告している。2023年の活動は、これらの報告のフォローアップを中心とすると位置づけた。具体的には、2024年春季大会(3月)で2件の企画講演を理事会と委員会の共同提案として計画・実施した。一つは「日本の学術論文等のオープンアクセス政策について」の題目で内閣府の参事官に、もう一件は、「基盤的研究費として全研究者に100万円程度の個人研究費を一律配分する」の題目で日本学術会議の担当された会員に講演していただく。この2件の講演が契機となり、研究環境の改善について多くの会員の理解と考察を深めると同時に、また、物理学会が出版する学術雑誌の将来について考察する良い機会になると期待される。加えて、物理学会として望ましい活動、物理学会の枠を越えた連携活動に繋がることなどを来年以降に検討することとしている。

9) 大会のあり方の検討と充実

新型コロナウイルス感染症の蔓延により、2020年の年次大会が現地開催中止となって以降、大会事業は大きな制限を受けてきた。2022年秋季大会は2年半ぶりに対面開催を行うことができたが、シンポジウムやインフォーマルミーティングをオンライン開催とするなど、強い制限のもとでの開催とせざるを得なかった。また、対面開催とオンライン配信のハイブリッド方式を試みたが、音響設備の性能に会場ごとのばらつきがあり、一部の会場では十分な品質のオンライン配信を行うことができなかった。オンライン配信の品質を確保しつつ、ハイブリッド方式で大会を開催するには相当の費用と労力を要することが明らかになった。このため、当面の間、年2回の大会のうち、年次大会は対面開催としてオンライン配信は行わず、他方の大会はオンライン開催とすることを2022年10月に開催された第682回理事会において承認した。

2023年に入り、新型コロナウイルス感染症は終息の兆しを見せ、2023年3月にはマスクの着用が個人の判断に委ねられることとなったが、同月に予定されていた大会については会場候補地の検討が新型コロナウイルス感染症が猛威を振るっていた期間に行われたこともあり、対面開催できる大学を見出すことができなかった。このため、年次大会は2023年9月に開催することとして、2023年3月の大会を春季大会としてオンライン開催した。すでに、オンライン開催の大会は5回目であり、本会の大会以外にもオンラインによる研究集会は広く開催され、会員もオンライン研究集会に豊富な経験を有しており、大会の運営に大きな問題は生じなかったことから、安定で持続的なオンライン大会を開催する体制は整ったものと認められる。しかし、一方で、一部の領域からは、オンライン開催時のポスターセッションには活気がなく、学生への教育的な観点からも好ましい状況ではないので改善を願いたいとの申し入れがあった。本会のオンライン大会での発表を避けて他学会へ講演が流出してしまう可能性も指摘されており、今後は、なんらかの対策の検討が必要である。

2023年5月には、新型コロナウイルス感染症が5類感染症へと移行し、2023年9月の年次大会は東北大学において3年半ぶりに本来の形式で開催された。前回に対面開催された2022年秋季大会から比べると、参加登録者はやや減であったが、理論核領域と実験核領域が米国物理学会との合同分科会開催のために不参加であったことを考慮すると、その数は、ほぼ横ばいであったと考えられる。一方で、講演数は増加しており、対面開催が会員の講演意欲を喚起した可能性がある。企業展示については、JPS Expo と銘打って企業の招致活動を行った結果、展示会等にコロナ以前の水準を上回る多数の企業より申し込みがあった。出展企業の見地からは、直接に会員との交流が可能な対面開催への出展が好まれることは間違いがなく、今後も対面開催におけるランチョンセミナーやキャリアパス展示を拡充することで学生や若手研究者の参加を促し、出展企業にとっても魅力的な大会となるよう努める。また、オンライン開催においても、大会サイトやプログラムへの広告バナー設置の勧誘を行うことで、一定の広告収入を確保することを目指していく。

大会運営面では、2022年秋季大会に引き続き、多くの学会事務局職員が現地の大会本部へ入り、大会運営に直接関わることで、現地実行委員会の負担軽減を図った。また、2023年9月の年次大会から従来は参加登録者へ郵送していた参加票を参加登録者が直接ダウンロードする形式に改めたが、特段の混乱は認められなかった。また、これまでのオンライン大会では、参加登録者に対し、無料で大会期間中に大会サイトを通じて講演概要集の閲覧権を付与してきた。これにより、低迷していた素核宇分野における講演概要の提出率が大きく改善した。そこで、2023年の年次大会では、対面開催であっても、参加登録者に大会期間中の講演概要集の閲覧権を無料で付与することとした。

当面の間、対面形式とオンライン形式を交互に行うという開催方法は、2回の対面開催を経て会員の間にもある程度定着してきたものと考えられる。しかしながら、オンライン開催には、会場確保の問題が生じないこと、開催経費や参加者の旅費負担が小さく、また、スケジュール管理やスライドの視認性において優れることなど多くのメリットはあるものの、ポスターセッションの問題や、会員間の交流、特に、若手会員間のコミュニティ形成が促進されにくいなどの弊害も指摘されている。そもそも、対面形式とオンライン形式の交互開催を理事会が承認したのは、2022年5月の領域委員会における審議に加え、2022年9月に対面開催した秋季大会後に実施した会員アンケートにおいて、会員の過半が年1回のオンライン開催を容認していたという状況に基づくものであるが、新型コロナウイルス感染症の終息に伴って会員の意見分布に変化が生じている可能性もある。今後は、改めて会員アンケートを実施して会員の意見分布を調査し、より望ましい大会の開催形式を検討していく必要がある。

また、物理学の全領域を横断して「計算」に関連する研究を扱う「計算物理」領域の試行についての議論を開始した。近年、広い意味の「計算」をキーワードとする物理学研究は様々な分野において急速に拡大しており、新領域の発足によって、分野・領域をまたいだ情報流通や議論の活発化が期待される。当初は、理事会から新領域の試行を提案することを検討したが、9月の年次大会での会員とのインフォーマルミーティングにおける議論において、新領域設置のルールを決定する理事会が自ら主導して新領域の試行を提案することへの懸念が示されたこと、すでに会員の間で「計算物理領域準備会」が設立され、新領域試行についてボトムアップでの機運が高まっていることが明らかになったため、理事会からの提案とはせず、「計算物理領域準備会」からの提案を領域委員会において議論しつつ、新領域の試行について検討を進めることとなった。2023年10月の第695回理事会では、2018年10月の第626回理事会において承認された領域新設についての手順書について審議し、現状に即した形に手順書を改定した。今

後は、既存領域とのコミュニケーションを図り、会員の理解を得ながら、新領域の試行・設置について検討を続ける。

2. 各事業詳細資料

2-1. 学術講演会の開催・後援等	
2-1-1-1. 第78回年次大会	<p>開催領域：素粒子論領域、素粒子実験領域、宇宙線・宇宙物理領域、ビーム物理領域、領域1～13</p> <p>会期：9月16日（土）～19日（火）</p> <p>会場：東北大学青葉山キャンパス（宮城県仙台市青葉区荒巻青葉6-3）・川内キャンパス（宮城県仙台市青葉区川内41）</p> <p>【年次大会全体の講演数・参加者数】</p> <p>講演数：2,924件</p> <p>参加登録者数：4,188名</p> <p>内訳：会員：4,057名（一般2,361名、学生・院生1,696名）</p> <p>非会員：131名（一般21名、学生・院生110名）</p> <p>【核物理領域】</p> <p>アメリカ物理学会核物理分科会と合同開催</p> <p>会期：11月26日（日）～12月1日（金）</p> <p>会場：ハワイ・ハワイ島ヒルトン・ワイコロア・ヴィレッジ</p>
2-1-1-2. 春季大会	<p>開催領域：素粒子論領域、素粒子実験領域、理論核物理領域、実験核物理領域、宇宙線・宇宙物理領域、領域1～13、物理と社会</p> <p>会期：3月22日（水）～3月25日（土）</p> <p>会場：オンライン開催</p> <p>【春季大会全体の講演数・参加者数】</p> <p>講演数：2,595件</p> <p>内訳：素核宇：888件、物性：1,707件</p> <p>参加登録者数：4,478名</p> <p>内訳：会員：4,391名（一般2,855名、学生・院生1,536名）</p> <p>非会員：87名（一般20名、学生・院生67名）</p>
2-1-2. 各種国内会議	125件の国内会議の共催・協賛・後援を行なった。
2-2. 国際交流・協力活動	
2-2-1. 国際会議の共催	2件の国際会議の共催、18件の国際会議の協賛・後援等を行った。
2-2-2. その他の国際活動	<p>●AAPPS（アジア・太平洋物理学連合）メンバー学会としての活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・AAPPS理事会への委員派遣（現地）（WEB） ・AAPPS Bulletin 編集委員会への委員派遣（WEB） ・APPC16開催に向けた協力（プログラム委員選定、周知協力等）と理事等の派遣 ・会誌・HPへのAAPPS活動の掲載 ・AAPPSの名を冠した賞AAPPS-JPS Awardを新設した。 <p>●海外からの投稿者へのJPSJ掲載料金援助（一部）</p>
2-3. 物理学に関する普及・啓発活動	
2-3-1. 科学セミナー	事業終了
2-3-2. オンライン物理講話	<p>企画名：第13回オンライン物理講話</p> <p>会期：2月4日（土）15:00～16:30</p> <p>会場：オンライン</p> <p>演題：クォークから中性子星へ</p> <p>聴講料：物理学会員・会友 無料、一般 500円</p>

	<p>聴講者数：331名</p> <p>企画名：第14回オンライン物理講話 会期：4月15日（土）15:00～16:30 会場：オンライン 演題：機械学習と物理学 聴講料：物理学会員・会友 無料、一般 500円 聴講者数：553名</p> <p>企画名：第15回オンライン物理講話 会期：7月1日（土）15:00～16:30 会場：オンライン 演題：2次元の物質グラフェンにまつわる10個のストーリー 聴講料：物理学会員・会友 無料、一般 500円 聴講者数：313名</p> <p>企画名：第16回オンライン物理講話 会期：9月2日（土）15:00～16:30 会場：オンライン 演題：加速膨張する宇宙と加速する観測的宇宙論 聴講料：物理学会員・会友 無料、一般 500円 聴講者数：428名</p> <p>企画名：第17回オンライン物理講話 会期：10月21日（土）15:00～16:30 会場：オンライン 演題：物理学の概念を用いた新しいコンピューティング技術：量子アニーリング 聴講料：物理学会員・会友 無料、一般 500円 聴講者数：323名</p> <p>企画名：第18回オンライン物理講話 会期：12月16日（土）15:00～16:30 会場：オンライン 演題：ミュオンの冷却と加速がひらく素粒子物理の新時代 聴講料：物理学会員・会友 無料、一般 500円 聴講者数：253名</p>
2-3-3. 公開講座	<p>【理事会企画】</p> <p>企画名：量子ビームで見る、視る、診る 会期：11月26日（日）13:00～16:45 会場：星陵会館ホールおよびオンラインでのライブ配信 演題：量子ビームってなんだろう？ 外3件 聴講料： 無料 聴講者数：347名 ※講師より許可された講演動画を本会ホームページ上で公開予定。</p>
2-3-4. 第19回Jr. セッション (2023) (主に高校生による講演発表)	<p>期日：口頭発表 3月18日（土）8:55～12:30 場所：オンライン 応募数：112件</p>

会)	講演発表数：89件
2-3-5-1. 年次大会市民向け講演会	<p>第78回年次大会（東北大学）</p> <p>企画名：市民科学講演会「最先端の科学を仙台の地から」</p> <p>期日：9月18日（月・祝）14:00～16:30</p> <p>場所：東北大学川内北キャンパス・マルチメディアホール</p> <p>プログラム：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「科学と技術の先端をつなぎ、明日を拓くNanoTerasu（ナノテラス）」 高田昌樹（東北大学国際放射光イノベーション・スマート研究センター教授） ・「地下から挑戦する宇宙の謎」 井上邦雄（東北大学ニュートリノ科学研究センター教授） <p>参加者数：約 100 名</p>
2-3-5-2. 秋季大会市民向け講演会	企画なし
2-3-6. その他	<ul style="list-style-type: none"> ●物理教育シンポジウム「物理教育をデジタル技術で進化させる ～学習者の理解を深めるために～」 会期：3月19日(日) 13:00～16:30 会場：オンライン 演題：「GIGAスクールで変わった小中学校の教育とこれからの理科教育 外4件 聴講料： 無料 聴講者数：117名 ●第28回日本物理学会論文賞 4編の論文を表彰した。受賞論文の代表者にはケース入り賞状と賞状の電子ファイルを贈呈した。 ●第4回日本物理学会米沢富美子記念賞 3名の受賞者を決めた。受賞者にはケース入り賞状・盾、1年以内の大会での記念講演の他、副賞（(1)向こう3年間の大会参加費・概要アクセス権、(2)JPSJ 掲載料・オープンアクセス化権もしくは PTEP 掲載料から総計 20 万円分の免除(受賞後の投稿につき 3 年間有効)を贈呈した。 ●第17回（2023年）日本物理学会若手奨励賞 47名の受賞者を決めた。受賞者にはケース入り賞状を贈呈した。 ●自然の不思議 — 物理教室 回数を5回に減らし、定員も20名強に縮小して7、8月に開催。 ●世田谷区中学生講座（才能の芽を育てる体験学習：サイエンス・ドリーム） 開催日：7/30 ●基礎実験講習会（高校物理の授業に役立つ基本実験講習会：東京会場） 主催：物理教育研究会（APEJ）、日本物理学会 共催：日本物理教育学会 協賛：学術図書出版社 会期：7月16日(日), 7月17日(月祝) 会場：麻布高校 テーマ数：2日間計9テーマ 対象：現職の物理(理科)教員、物理(理科)教員を志望する学生 他 受講者数：46名 ●第1回AAPPS-JPS Award

	5名の受賞者を決めた。受賞者にはケース入り賞状・メダル、授賞式後1年以内の大会での受賞記念講演の他、副賞（受賞後の直近3大会の大会参加費と概要アクセス権）を贈呈した
2-4. 本会の目的達成のために重要な活動	
2-4-1. キャリアパス関係事業	<ul style="list-style-type: none"> ●キャリアパス展示 第78回年次大会（2023年） 参加企業：3社 2023年春季大会 開催なし ●キャリアパスセッション 第78回年次大会（2023年） 開催なし 2023年春季大会 開催なし
2-4-2. 協力活動	<ul style="list-style-type: none"> ●「日本技術者教育認定機構(JABEE)」関係 <ul style="list-style-type: none"> ・JABEE 理事、認定・審査調整委員会の各委員を派遣 ●ダイバーシティ推進関係 <ul style="list-style-type: none"> ・理事会企画インフォーマルミーティング「留学生、外国人研究者にとって居心地のいい物理学会とは」開催(9/17) ・関西科学塾コンソーシアム賛助会員、第17回参加者へのノベルティグッズ提供（小冊子70の不思議66冊）、賛助会員ブース展示参加(3/18-19) ・女子中高生夏の学校2023の企画、運営、8/5-7 現地開催 ・ICWIPへの参加 7/10-14 オンライン開催 ・男女共同参画学協会連絡会運営委員会（3/27、8/30、12/4 全てオンライン開催）、シンポジウム(10/14 東大武田ホール及びオンライン開催)への参加 ●研究環境検討委員会関係 <ul style="list-style-type: none"> ・学会誌の「研究費配分に関する教育研究環境検討委員会だより」で広報活動を実施 ・2023年春季大会 シンポジウムを開催した ・2024年春季大会シンポジウム開催について検討した受賞候補等推薦委員会関係 ・江崎玲於奈賞、2023年度山田科学振興財団研究援助、第20回（2023年度）日本学術振興会賞、朝日賞、2023年度島津賞、2023年度島津奨励賞、第45回本多記念研究奨励賞、松尾財団松尾学術研究助成、第64回（令和5年度）東レ科学技術賞、第64回（令和5年度）東レ科学技術研究助成の各賞・助成に候補者を推薦。 ●その他 <ul style="list-style-type: none"> ・特定非営利活動法人物理オリンピック日本委員会理事派遣
2-4-3. 物理系学術誌刊行センター(PCPAP)	応用物理学会と協同して運営を行った。
2-4-4. 支部活動	<ul style="list-style-type: none"> ●支部長会議・懇談会 <ul style="list-style-type: none"> ・支部長会議 会期：5月22日、11月29日 場所： オンライン会議 ●支部例会、支部特別企画等 各支部において、次のとおり開催した（支部主催事業等、主な事業を記載）。 <p>【北海道支部】</p>

- ・役員会 会期：2月6日／5月23日／11月30日、会場：オンライン開催
- ・北海道支部講演会(計12回) 会期：2月14日／2月16日／2月20日／3月6日／4月24日／5月16日／8月3日／8月28日／9月20日／10月10日／11月6日／12月26日、会場：北海道大学(1～2・4～12回) (7・12回はオンライン並行開催)／オンライン開催(3回)、共催：エンレイソウの会／物理コロキウム(1・3・7回)／応用物理学部門学術講演会(4回)
- ・高校生の授業に役立つ基本実験講習会 in 北海道 (計2回) 会期：2月25日／12月28日、会場：北海道札幌南高等学校、参加者数：各回約30名、共催：日本物理教育学会北海道支部／北海道高等学校理科研究会

【東北支部】

- ・役員会 会期：8月29日、会場：オンライン開催
- ・出前授業(計26回) 会期：2月2日／2月8日／2月16日／2月21日／3月7日／3月20日／5月18日／5月31日・6月7日・14日・28日／6月3日／6月20日／7月1日／7月7日／7月21日／8月18日／8月30日／9月30日／10月19日／10月20日／10月27日／10月28日／11月8日／11月10日／11月15日／11月16日／12月15日／12月22日、会場：宮城県仙台向山高等学校(1・17回)／宮城県名取高等学校(2・4・8・20回)／仙台市立南中山小学校(3回)／仙台市立仙台青陵中等教育学校(5・13・26回)／宮城県宮城野高等学校(6・15・23回)／宮城教育大学(7回)／仙台育英学園宮城野校舎(9回)／秋田県立秋田南高等学校(10回)／宮城県古川黎明中学校(11回)／青森県立五所川原高等学校(12回)／山形県立山形東高等学校(14回)／福島県立安積高等学校(16回)／宮城県泉館山高等学校(18回)／東北大学サイエンスキャンパスホール(19回)／気仙沼市立新月中学校(21回)／宮城教育大学附属中学校(22回)／山形県立鶴岡南高等学校(23回)／宮城県富谷高等学校(24回)、参加者数：各回約40名～686名
- ・学都仙台宮城サイエンスデイ 2023 会期：7月16日、会場：東北大学川内北キャンパス、参加者数：8,828名、主催：特定非営利活動法人 natural science、共催：日本物理学会東北支部／東北大学／仙台市教育委員会 他、協賛：株式会社ユーメディア 他、後援：文部科学省 他

【新潟支部】

- ・役員会 会期：1月6～10日／9月4～20日、会場：メール審議
- ・支部例会 会期：12月2日、会場：新潟大学五十嵐キャンパス、参加者数：54名

【北陸支部】

- ・役員会 会期：7月29日／12月26日、会場：オンライン開催／福井大学及びオンライン開催
- ・支部総会 会期：12月26日、会場：福井大学、参加者数：34名
- ・北陸支部定例学術講演会 会期：12月26日、会場：福井大学、参加者数：131名(学生88名、一般43名)
- ・特別講演会(4回) 会期：5月2日／8月10日／9月28日／11月14日、会場：金沢大学(1・4回)／福井大学(2回)／富山大学(3回)／オンライン並行開催(1～4回)

【名古屋支部】

- ・役員会 会期：4月11日／10月24日、会場：オンライン会議
- ・女子学生のための理系進学セミナー：物理学ってなに？ 会期：6月24日、会場：名古屋大学大学院工学研究科、参加者数：47名(中高生32名、保護者15名)、主催：日本物理学会名古屋支部、共催：名古屋大学大学院工学研究科／名古屋大学大学院理学研究科
- ・支部会議 会期：12月16日、会場：オンライン会議
- ・公開講演会（オンライン市民講演会「グラフェンの世界」—炭素のナノシートが拓く未来—） 会期：12月16日、会場：オンライン開催、参加者数：109名、主催：日本物理学会名古屋支部、後援：名古屋大学高等研究院

【京都支部】

- ・支部総会 会期：9月12日、会場：オンライン開催、参加者数：約25名
- ・理科実験教室 会期：4月23日・5月28日・6月11日（身近にある“もの”に隠された秘密を、科学の目を通して暴いてみよう！）／8月5日・6日（発光バクテリアを観察しよう！）／12月17日（光の三原色を学ぼう～LED工作で作るイルミネーション～）、会場：京都大学理学研究科セミナーハウス、参加者数：各回約40名、主催：NPO法人知的人材ネットワーク・あいんしゅたいん／日本物理学会京都支部
- ・市民講座「物理と宇宙」 会期：10月8日、会場：京都大学百周年時計台記念館、参加者数：約500名、主催：京都大学大学院理学研究科物理学・宇宙物理学専攻／京都大学基礎物理学研究所、共催：日本物理学会京都支部
- ・オンラインカフェ「続 湯川博士の贈り物」 会期：(シリーズ3特別企画)1月14日／(シリーズ4)2月19日・3月19日・4月16日・5月21日・6月18日／(シリーズ5)8月19日・9月9日・10月21日・11月18日・12月9日、会場：オンライン開催、参加者数：各回約50名、主催：基礎科学研究所（NPO法人知的人材ネットワーク・あいんしゅたいん 附置機関）／日本物理学会京都支部

【大阪支部】

- ・大阪支部懇談会 会期：4月12日／5月11日／9月1日／10月6日、会場：オンライン開催(1～3回)／メール審議(4回)
- ・大阪支部講演会 会期：3月17日、会場：大阪大学理学研究科、主催：大阪大学大学院理学研究科、共催：日本物理学会大阪支部
- ・一日科学体験 2023 会期：8月4日、会場：甲南大学岡本キャンパス、参加者数：18名、主催：甲南大学理工学部、協賛：日本物理学会大阪支部
- ・青少年のための科学の祭典 2023 大阪大会 サイエンス・フェスタ 会期：8月19日・20日、会場：大谷中学校・高等学校、主催：「青少年のための科学の祭典」大阪大会実行委員会／日本科学技術振興財団／日本物理教育学会近畿支部／日本物理学会大阪支部／大阪市立科学館／関西サイエンス・フォーラム／読売新聞社
- ・来日 100周年記念 アインシュタイン日本講演旅行展@阪大豊中記念講演会 会期：10月2日、会場：大阪大学豊中キャンパス南部陽一郎ホール、主催：大阪大学大学院理学研究科、共催：日本物理学会大阪支部

- ・2023 年度大阪公立大学物理・NITEP+アトムの会共催 談話会 会期：10 月 6 日、会場：大阪公立大学杉本キャンパス、主催：大阪公立大学理学部物理学科、共催：日本物理学会大阪支部
- ・第 37 回湯川記念講演会 会期：11 月 5 日、会場：大阪大学豊中キャンパス南部陽一郎ホール、参加者数：80 名、主催：大阪大学大学院理学研究科・理学部 湯川記念室、共催：日本物理学会大阪支部、後援：日本物理教育学会近畿支部
- ・公開シンポジウム「物理と情報の融合：量子コンピュータって何だろう？」 会期：12 月 10 日、会場：甲南大学、参加者数：約 80 名、主催：日本物理学会大阪支部、後援：日本物理教育学会近畿支部 他
- ・高校物理の授業に役立つ基本実験講習会 会期：12 月 16 日、会場：兵庫県立神戸高等学校、参加者数：24 名、主催：日本物理教育学会近畿支部／日本物理学会大阪支部、共催：兵庫県高等学校教育研究会科学部会、後援：兵庫県教育委員会 他

【中国支部】

- ・役員会 会期：1 月 10 日～／2 月 8 日～／9 月 21 日～、会場：オンライン開催及びメール審議
- ・小学校から使える理科教材ワークショップ(VIII)ー第 26 回物理教育研究会ー 会期：2 月 18 日、会場：広島大学東広島キャンパスフェニックス国際センター、参加者数：約 50 名
- ・2023 年度応用物理・物理系学会中国四国支部合同学術講演会 会期：7 月 29 日、会場：島根大学松江キャンパス、参加者数：255 名（一般 61 名、学生 144 名、Jr セッション 49 名、特別講演講師 1 名）、主催：日本物理学会中国支部／日本物理学会四国支部／応用物理学会中国四国支部／日本物理教育学会中国四国支部／日本光学会中国・四国支部、共催：島根大学
- ・サイエンスワールド 2023 会期：10 月 29 日、会場：山口大学吉田キャンパス、参加者数：約 1,000 人、主催：山口大学理学部、後援：日本物理学会中国支部 他

【四国支部】

- ・2023 年度応用物理・物理系学会中国四国支部合同学術講演会（詳細は中国支部と同）
- ・支部総会 会期：7 月 29 日、会場：島根大学
- ・役員会 会期：5 月 24～29 日／7 月 28 日～30 日／12 月 5 日～7 日、会場：メール審議
- ・第 4 回高校物理の授業に役立つ基本実験講習会 in 高松 会期：12 月 2 日、会場：高松第一高等学校、主催：基本実験講習会 in 高松実行委員会、共催：物理教育研究会(APEJ)／日本物理学会四国支部／日本物理教育学会中国四国支部、後援：香川県高等学校教育研究会理化部会
- ・学術講演会「見えないブラックホールの探し方」 会期：9 月 26 日、会場：高知大学朝倉キャンパス
- ・LED 総合フォーラム 2023 in 徳島 会期：1 月 20 日、会場：徳島大学常三島キャンパスおよびオンライン開催、主催：LED 総合フォーラム 2023in 徳島実行委員会、協賛：日本物理学会四国支部 他

【九州支部】

- ・役員会 会期：2 月 1 日／5 月 1 日、会場：オンライン開催

	<ul style="list-style-type: none"> ・第14回高校物理の授業に役立つ基本実験講習会 in 福岡 会期：11月23日、会場：西南学院高等学校、参加者数：37名、主催：福岡県高等学校物理部会／日本物理学会九州支部／日本物理教育学会九州支部、共催：物理教育研究会(APEJ)／科学教育ネットワーク in 福岡／NPO法人理科カリキュラムを考える会 ・支部総会 会期：12月2日、会場：長崎大学、参加者数：約100名 ・2023年度特別講演会 会期：12月2日、会場：長崎大学、参加者数：約100名 ・支部例会 会期：12月2日、会場：長崎大学、参加者数：約140名、主催：日本物理学会九州支部、共催：長崎大学／日本物理教育学会九州支部 																																																						
2-4-5. 情報・資料公開	<ul style="list-style-type: none"> ●図書雑誌および物理学史資料の供覧 必要に応じて実施した。 ●会誌の寄贈交換：国内19件、国外9件 																																																						
2-4-6. 寄付金の収受・使用	<p>2023年1月～12月に収受した寄付金は以下のとおりである。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>寄付先事業</th> <th>金額</th> <th>件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>次世代人材育成プロジェクト全体</td> <td>30,582円</td> <td>4件</td> </tr> <tr> <td>Jr.セッション事業</td> <td>0円</td> <td>0件</td> </tr> <tr> <td>オンライン物理講話事業</td> <td>0円</td> <td>0件</td> </tr> <tr> <td>キャリア支援事業</td> <td>0円</td> <td>0件</td> </tr> <tr> <td>物理教育事業</td> <td>10,582円</td> <td>1件</td> </tr> <tr> <td>物理教室事業</td> <td>0円</td> <td>0件</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>41,164円</td> <td>5件</td> </tr> <tr> <td>前年からの繰り越し</td> <td>1,707,412円</td> <td></td> </tr> <tr> <td>総計</td> <td>1,748,576円</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>2023年中の寄付金使用状況は以下のとおりである。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>寄付金の使用先</th> <th>金額</th> <th>対象事業</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>事業運営費</td> <td>613,604円</td> <td>Jr.セッション</td> </tr> <tr> <td>事業運営費</td> <td>110,429円</td> <td>オンライン物理講話</td> </tr> <tr> <td>事業運営費</td> <td>209,048円</td> <td>物理教育事業(基本実験講習会)</td> </tr> <tr> <td>事業運営費</td> <td>65,837円</td> <td>物理教育事業(物理教育シンポジウム等)</td> </tr> <tr> <td>事業運営費</td> <td>35,864円</td> <td>物理教室</td> </tr> <tr> <td>翌年への繰越</td> <td>700,212円</td> <td>次世代人材育成プロジェクト他</td> </tr> <tr> <td>翌々年への繰越</td> <td>13,582円</td> <td>次世代人材育成プロジェクト他</td> </tr> </tbody> </table>	寄付先事業	金額	件数	次世代人材育成プロジェクト全体	30,582円	4件	Jr.セッション事業	0円	0件	オンライン物理講話事業	0円	0件	キャリア支援事業	0円	0件	物理教育事業	10,582円	1件	物理教室事業	0円	0件	合計	41,164円	5件	前年からの繰り越し	1,707,412円		総計	1,748,576円		寄付金の使用先	金額	対象事業	事業運営費	613,604円	Jr.セッション	事業運営費	110,429円	オンライン物理講話	事業運営費	209,048円	物理教育事業(基本実験講習会)	事業運営費	65,837円	物理教育事業(物理教育シンポジウム等)	事業運営費	35,864円	物理教室	翌年への繰越	700,212円	次世代人材育成プロジェクト他	翌々年への繰越	13,582円	次世代人材育成プロジェクト他
寄付先事業	金額	件数																																																					
次世代人材育成プロジェクト全体	30,582円	4件																																																					
Jr.セッション事業	0円	0件																																																					
オンライン物理講話事業	0円	0件																																																					
キャリア支援事業	0円	0件																																																					
物理教育事業	10,582円	1件																																																					
物理教室事業	0円	0件																																																					
合計	41,164円	5件																																																					
前年からの繰り越し	1,707,412円																																																						
総計	1,748,576円																																																						
寄付金の使用先	金額	対象事業																																																					
事業運営費	613,604円	Jr.セッション																																																					
事業運営費	110,429円	オンライン物理講話																																																					
事業運営費	209,048円	物理教育事業(基本実験講習会)																																																					
事業運営費	65,837円	物理教育事業(物理教育シンポジウム等)																																																					
事業運営費	35,864円	物理教室																																																					
翌年への繰越	700,212円	次世代人材育成プロジェクト他																																																					
翌々年への繰越	13,582円	次世代人材育成プロジェクト他																																																					
2-5. 刊行物 (実施事業を含む)																																																							
2-5-1. 日本物理学会誌	<p>【公益目的支出計画実施事業】 第78巻第1号～12号を刊行した。A4冊子版、月刊。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>総数</th> <th>月平均</th> <th>月予定数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ページ数</td> <td>966</td> <td>81</td> <td>86</td> </tr> </tbody> </table>		総数	月平均	月予定数	ページ数	966	81	86																																														
	総数	月平均	月予定数																																																				
ページ数	966	81	86																																																				

	刊行部数	175,570	14,631	15,550
	【特別購読数】 国内：166 国外：0			
2-5-2. JOURNAL OF THE PHYSICAL SOCIETY OF JAPAN (JPSJ)	Vol. 92 No. 1～No. 12を刊行した。A4冊子及び電子版。			
		総数	月平均	月予定数
	ページ数	2037	170	230
	冊子刊行部数	3,480	290	290
	【掲載論文】 Letter 45, Full Paper 187, Short Note 12, Addenda 1, Comments & Reply 0, Erratum 6, Invited Paper 4, Special Topics 18 【電子版の2023年1-12月論文総ダウンロード数 474,011】 【電子版ダウンロード、国内外の比率 国内 42%、海外 58%】 【特別購読数】 国内 121 (オンラインのみ 84+冊子版 37) 国外 1,018 (オンラインのみ 1,001+冊子版17)			
2-5-3. PROGRESS OF THEORETICAL AND EXPERIMENTAL PHYSICS (PTEP)	Volume 2023 Issues 1～12 を電子版で発行した。 掲載論文数：Paper 143 Letter 6 Errata・Addenda・Comments & Replies・Retraction notice・Editorial 5 特集・招待論文 5 【電子版の2023年1月-12月論文総ダウンロード数】 268,395			
2-5-4. JPS Conference Proceedings	Vol. 38 Proceedings of the 29th International Conference on Low Temperature Physics (LT29) ISBN:978-4-89027-151-1 Vol. 39 Proceedings of the 10th International Workshop on Very High Energy Particle Astronomy in 2019 (VHEPA2019) ISBN: 978-4-89027-152-8 Vol. 40 Proceedings of Blockchain Kaigi 2022 (BCK22) ISBN: 978-4-89027-153-5 【電子版の2023年1-12月論文総ダウンロード数 60,697】 【電子版ダウンロード、国内外の比率 国内 27%、海外 73%】			
2-5-5. JPS Hot Topics	Vol.3 (2023年) について 43件の記事を電子版で掲載した。			
2-5-6. 講演概要集	2023年春季大会 (第78巻第1号) (全領域掲載) Web版 2023年3月1日から1年間公開 DVD版 550部 第78回年次大会 (第78巻第2号) (全領域掲載) Web版 2023年9月1日から1年間公開 DVD版 550部			
2-5-7. 大学の物理教育 (B5判)	第29巻1号(3月)、2号(7月)、3号(11月)を刊行 各号の刊行部数1,2,3号1,600部 年間総ページ数150 ページ			

(附属明細1) 処務詳細資料
総会・役員会等に関する事項

3-1-1. 総会 (開催日)	第103回定時総会 (3月31日)
3-1-2. 監事会 (開催日)	2月18日
3-1-3. 理事会等 (開催日)	●理事会 1月21日 2月18日 3月11日 3月31日 4月8日

	<p>5月13日 6月10日 7月8日 8月4日 9月8日 10月14日 11月11日 12月9日 ●会計理事会議 2月16日 4月4日 ●予算編成ワーキンググループ会議 8月2日 10月26日 ●日本物理学会・応用物理学会情報交換会 2月28日</p>
3-1-4. 委員会等（開催日）	<p>●刊行委員会 2月16日 5月22日 8月31日 11月7日 ●会誌編集委員会 1月27日 2月17日 3月16日 4月15日 5月20日 6月17日 7月22日 8月26日 9月30日 10月21日 11月18日 12月16日 ●新著紹介小委員会 1月18日 3月8日 5月17日 7月12日 9月27日 11月8日 ●JPSJ編集委員会 1月27日 2月28日 3月28日 4月24日 5月30日 6月2日（全委員向け説明会） 6月27日 7月25日 8月28日 9月25日 10月31日 11月24日 12月22日 ●PTEP編集委員会 3月2日 4月24日 6月13日 8月29日 10月24日 12月19日 ●受賞候補等推薦委員会 2月16日 7月12日 9月7日 ●物理教育委員会 2月7日 5月17日 8月1日 11月7日 ●大学の物理教育編集委員会 1月15日 2月11日 2月23日 5月13日 6月3日 6月17日 8月25日 9月11日 9月30日 10月22日 12月27日 ●ダイバーシティ推進委員会 4月21日 4月24日（メール審議） 9月27日 12月18日 ●日本物理学会と応用物理学会における男女共同参画関連国際活動連絡会 2月9日 6月7日 6月30日 ●領域委員会 5月29日 11月16日 ●事務局運営委員会 2月24日 6月26日 10月20日 ●選挙管理委員会 5月31日 ●物理学史資料委員会 1月21日 6月24日 9月24日 11月4日 ●Jr. セッション委員会 1月31日 3月27日 7月5日 8月14日～22日（メール開催） ●日本物理学会論文賞選考委員会 12月25日 ●日本物理学会米沢富美子記念賞選考委員会 12月15日 ●広報委員会 10月3日</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ●情報システム運用委員会 (開催なし) ●研究費配分に関する教育研究環境検討委員会 1月13日 5月8日 (メール審議) 6月16日 10月17日 ●次世代人材育成・社会連携委員会 3月16日 6月28日 11月15日 ●AAPPS委員会 2月3日 (拡大委員会) 5月8日 6月13日 10月5日
--	--

契約・入札・他に関する事項

●主な新規契約に関する事項

契約月日	相手方	契約の種類等	期間等
2023/8/31	(株) リガク	協賛	2023/8/31～2026/3/31
2023/10/20	JSR 株式会社	協賛	2023/10/20～2027/3/31

- 入札に関する事項 (なし)
- 許可、認可および承認に関する事項 (なし)
- その他の事項
 - ・第81～82期次々期会長候補者選挙を開始した。

体制の整備に関する事項

- ・定款、細則の変更なし

(附属明細2) 会員の異動状況

会員種別	会 員 数		増 減
	2022年12月31日現在	2023年12月31日現在	
正会員	14,790 ¹⁾ (内：大学院生数2,619)	14,276 ²⁾ (内：大学院生数2,347)	-514 (内：大学院生数 -272)
学部学生会員	137	68	-69
賛助会員	87(169口)	83(162口)	-4(-7口)
計	15,014	14,427	-587

1) うち名誉会員 18、シニア会員 843。

2) うち名誉会員 17、シニア会員 839。

その他：会友登録者数 2022年12月31日現在 200名、 2023年12月31日現在 187名

(附属明細3) 事務局の現況 (2023年12月31日現在)

職員14名は事務局と物理学系学術誌刊行センターに分かれており、契約職員を含む人員配置の内訳は以下の通りである。

事務局	職員12名 契約職員3名
刊行センター	職員 2名 契約職員1名 JPSJ専任編集委員長1名 JPSJ専任編集委員1名 PTEP専任編集委員長1名

一般社団法人 日本物理学会
2023年事業報告附属明細書
(2023年1月1日～12月31日)

- ・記載すべき事項 特に無し